

会 議 報 告 書 (要旨)

- 会 議 名 日向市総合体育館整備市民検討委員会 第3回会議
- 日 時 令和元年10月23日(水) 15:00~17:15
- 場 所 日向市中央公民館2階レクレーション室
- 主 催 資産経営課
- 出 席 者 市民検討委員会委員(17名、欠席2名)、事務局(7名)
- 協議内容 日向市総合体育館整備市民検討委員会第3回会議を開催し、基本構想素案、コンセプト、規模、機能等について協議した。

【会次第】

- 1 開 会
- 2 課長あいさつ
- 3 事務局説明
 - (1) 第2回市民検討委員会(8/26)協議結果について 資料1
 - (2) 総合体育館視察(市事務局)結果について 資料2
 - (3) 基本構想素案について 資料3
- 4 意見交換
 - (1) コンセプト、機能、規模等について
 - (2) 基本構想素案について

【主な意見(要旨)】

- (委員長) 本日の議論のポイントとして、建設場所については委員会としては、大王谷運動公園ということで共通理解がされており、また、重要なコンセプトについても協議を続けてきたが、現在の案に反映されているか、意見を伺いたい。
- (委員) 今までの協議の中で、市民利用を中心にスポーツができる、災害時の拠点となることが意見として出ていた。全国規模の大会ではなく、市民レベルの規模でいいのではないか。現状としては、5,000㎡~7,000㎡が最適ではないかと考えている。災害時の拠点としては、大王谷は高台になるので、移動手段の検討が必要であると考えます。
- (委員) 防災の拠点、災害時に最大でどれだけ使用できるか。いす、観客席の検討が必要。スポーツだけではなく、スポーツを利用しない様々な市民にとっても使いやすい施設にしてほしい。
- (委員) 観客席に背もたれがあるため、避難の時に邪魔になる。取り外しのきく観客席がいい。トイレで、おむつを替えるのは子供だけではない。使いやすさ、衛生面の充実を考えてほしい。体育館の使用は、車いすも可能なのか。体育館をどれだけ持たせたいか、耐用年数は50年なのか、50年に1回作り変えるとなると大変、日向市も人口減少の時代に、子どもや孫の時代に大変な思いをしないようにしてほしい。
- (委員) バスケット2面になっているが、サブアリーナを造って、バスケ3面にしてほしい。大規模の方が、長期的な避難所にもなる。避難山とか短期的な避難場所はあるが、長期的

- な場所がない。都城市も延岡市もサブアリーナがある。現在の市内の体育館は、壁とコートが近い。せつかく整備するのであれば、3面で、なるべく大きな体育館でお願いしたい。
- (委員) 最初のスポーツ施設整備基本構想と比較すると全体的には、納得している。いろいろなことを考えると手厚くした方が理想ではあるが、難しい。医務室とか授乳室とか、コンセプトの中にある利用者に優しい施設にしてほしい。
- (委員) イベントの会場としても使用したい。天気の関係で屋内での活用、会議場所も必要。現在の体育センターでも、ひょっとこ踊りの練習や会議にも使用している。地域活性化のため交流人口を増やすことも重要ではないか。視察してアリーナくにとみは参考になった。基本構想はまとまっているとおりで特に問題はないと思うが、全国的に災害が多い中で、災害時の防災拠点という点から、避難場所として利用できる安全、安心を与える施設が必要と考えている。
- (委員) 施設規模は、いいのではないか。長期避難場所として使うのであれば、佐伯市や菊池市のような多目的室がほしい。災害時にも、空調も重要と考える。
- (委員) 大王谷は市内から行く交通の便、移動手段の検討が必要。高齢者、障がい者のバリアフリーが重要である。また、グラウンドゴルフは盛んだが、新しい体育館でグラウンドゴルフができるのか。サンドームの人工芝が悪くなっている。公民館で体操等を行っているが、人数も多いことから、高齢者スポーツの屋内スポーツはどれくらいできるのか。
- (委員) 団体の理事会で、大王谷で整備される話をしたが、場所的に高い、遠い。できれば、エレベーターがついていた方がよい。都城市の早水公園はあるが、大会時に電源が入ってなくて使えなかった。アリーナくにとみは、外観だけ見たが、ほどよい大きさと感じた。バリアフリーをお願いしたい。
- (委員) アリーナくにとみのウォーキングの施設はよかった。スポーツをしない人も行けるので利用者も多い。手と手ママの会からの要望で、救護室は設置してほしい。運動だけではなく、応援でも体育館は使用するので、シャワールームは、赤ちゃん、高齢者、障がい者も利用できるもの、車いす、バギーも入れるもの。トイレにベッド、保護者も一緒に入れるもの、今のトイレの2倍の広さのものがよい。バギーと一緒に入れるトイレを設置してほしい。
- (委員) 子供を預かる関係で、衛生面、おむつ交換などはとても重要。災害時にもトレーニングも大切ではないか。ローコストのシステム建築が安価で震災でも大丈夫だったとのことだが、もう少し説明してほしい。
- (委員) 昔、スポーツをしていたが、高校総体等是可以するような施設は必要。バスケ2面、サブアリーナで武道ができればいいのではないか。サブアリーナがあれば、体育館に避難したとき、プライバシーの問題で分けられるのではないか。
- (委員) 基本コンセプトはいいと思う。災害時に防災拠点となる体育館として、支援物資の確保が本当にできるのか、長期避難場所だからこそころ問題、トイレの衛生面など、ソフト面で、きめ細かにやっていく必要があると考える。
- (委員) アリーナくにとみなど、いろいろ施設を見ている。体育協会は29競技団体からの要望はバスケ3面の広さであるが、いろいろな条件の中で、今の施設規模であれば、Vプ

レミア等は無理であるが、バレーは、メイン3面、サブアリーナができれば1面、駐車場も400台を超えるので、ある程度の大会は開催できるので、市民活用という点でも、規模としては妥当ではないかと考える。ただ、各大会で女子トイレは混雑するので、今後、検討してもらいたい。

(委員) 先進地視察は行けなかったが、アリーナくにとみの状況は知っている。体育協会の代表として市民検討委員会に参加させていただき、体育館建設の2万人の署名もあり、バスケット3面、バレー4面の規模がほしい。バスケット競技団体の意見としては、バスケット3面又はバレー4面、この広さであれば、ハンドボール2面、フットサル2面も可能である。大きな体育館ができれば、避難者も多く利用できる。次の体育館がいつできるかわからないので、つくってよかった、子どもたちが将来、このような体育館があつて良かったと思える体育館を整備してもらいたい。

(副委員長) 体育館には空調、バリアフリーは必須であり、ないと機能しない。トイレなどは基本計画、基本設計等で協議される。県の場合は、このような検討委員会はなかったもので、日向市は、丁寧に進めていると思う。場所は、いろいろな意見を伺いながら、総合的に市が判断するものである。ローコストの耐用年数がどうなのか不明であるが、基本設計等で協議されるのではないかと考える。防災面でも安全、安心、快適に過ごせることが、機能として重要である。バスケット3面の広さができるとよいが、日向市の財政状況、用地、利用者等を考慮すると、くにとみレベルの規模で中身を充実させる方がいいのではないかと、サブアリーナで柔道、剣道ができるのがいいのではないかと考えている。国体のバスケット競技は、成年は都城で内定しているが、国体レベルも2面で大丈夫なので、延岡、日向で、少年男女2面ずつで可能ではないか。

(委員長) 規模については、各委員の意見を踏まえ、体育館整備を実現することが重要なので、今後のまとめ方を協議することとしたい。

(事務局) バリアフリー、ユニバーサルデザイン、防災の拠点としてのあり方等、改めて市民の方の思いを感じ、また、規模についても、それぞれの立場の要望があることは理解した。柔道場のサブアリーナでの兼用等、他の機能的なことも含めて、今後、検討していきたい。また、コスト的に、鉄骨造りを主体としたシステム建築等を含めて、長期的に使用できる施設として建設後のメンテナンス等も含めて検討していきたい。市民から愛される施設とすることで長寿命化にもつながると考えているので、丁寧な協議を進めながら、整備していきたい。

○キャッチフレーズについて、ワークショップを行い、キーワード等について委員に意見を出していただき、委員長がまとめを行った。

(委員長) キャッチフレーズについては、キーワードももとに、事務局、委員長でまとめるということによろしいか。また、基本構想案について、意見がある場合は、1週間以内に事務局へお願いしたい。

(委員) 了承。

5 その他

(1) 今後のスケジュール

- 第4回会議 11月26日(火) 10:30~12:00 (委員会室)
【内容(案)】まとめ
- パブリックコメント 11月初旬~中旬
- 市民説明会 11月5日(月)~14日(木) (市内7地区)

資料は、別添のとおり。